

## 式 辞

(令和7年度 神奈川県立 横浜瀬谷高等学校 第3回卒業式)

○ただいま、**305**名の皆さんに卒業証書をお渡ししました。まずは、卒業生の皆さんに心からお祝いを申し上げたいと思います。「ご卒業おめでとうございます。」

そして、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。さまざまな困難を乗り越えて、立派に成長された姿を皆様とともに喜びたいと思います。

また、ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。本校のことをいつもお心にかけていただき感謝に堪えません。職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

○ さて、スイスの生物学者アドルフ・ポルトマンは、人間を「生理的早産」の状態で生まれてくる生き物だと定義しました。他の動物が生まれてすぐに立ち上がるのに対し、人間はあまりにも無力で、未完成な状態で生まれてくる。本来ならもう一年、母体の中で育つべき時間を、あえて外の世界で過ごすことで、人間は言葉を覚え、文化を吸収し、人間らしく育っていくのだという考え方です。人間は一人では決して生きることができなかったこと、そして「他者との関わり」や「教育」という豊かな環境があって初めて、私たちは自分自身を形作ることができるということです。

いま、お渡しした卒業証書。それは、皆さん自身の努力の結晶であると同時に、皆さんを、惜しみない愛情で支え続けてくれた保護者の方々の18年間にも及ぶ偉大な子育ての卒業証書でもあると思います。家に帰り、証書を手と共に喜びを分かち合ってください。そして生徒の皆さんは心からの感謝の言葉を保護者の方々にかけてください。

○ 皆さんがこれから漕ぎ出す社会は、今、歴史的な転換点にあります。何度も繰り返される戦争や紛争。プラネタリーバウンダリーといわれる地球環境の限界。生成AIの飛躍的な進展により、かつて安泰と言われたホワイトカラーの仕事や、最先端だったエンジニアの業務

さえもが、AIによって代替される予測があります。また、価値観が多様化し、正解が一つに定まらない社会の中、これまでのビジネスモデルや産業の前提が、音を立てて崩れ去るような急激な変化の渦中に私たちはいます。

これからの時代に求められるものは、「正解を暗記する力」以上に「問いを立てる力」や「新たな価値を創造する力」だと言われています。これまでの学力観の見直しが検討され、普通科高校や大学の変革が求められています。

○3期生の皆さんは、横浜瀬谷高校の誕生とともに入学してきました。本校での三年間はいかがでしたか。思い出してください。部活動で先輩から教わったこと、後輩に教えたこと、同期と一緒に悩んだり、励ましあったりしたこと、試合やコンクールでよい成績が残せて、みんなで喜び合ったこと、引退試合で負けて涙したこと、自分が試合に出れなくてもみんなの力になることを精一杯やったこと、途中でやめてしまったこと、陸上競技大会で、頑張ったことやクラスメートを思いっきり声援したこと、瀬谷虹祭の準備を暑い中、みんなで力を合わせたこと、合唱祭で優勝しようとクラスで団結したこと、球技大会で盛り上がったこと、そのすべてが青春です。私自身、文化祭の開会式の盛り上がりや球技大会での教員チームと優勝チームとの試合、体育館の熱気や歓声を忘れることができません。もちろん、先生から指導されたり、ほめられたりしたこと、思いやりや優しさ、暖かさといった人として大切なことを、本校での人との関わりの中で学んだと思います。一生付き合える大切な仲間を見つけることができたのではないのでしょうか。

○皆さんは、三年間の授業で各科目から非常に多くのことを学んだと思います。それも単なる知識を授かるだけでなく、ペアワークやグループワークそれにロイロノートを使って人の考えを知り、自分自身の考えを深める時間が多かったのではないのでしょうか。大切なのは、正しい知識を得て、常に考え続ける、学び続ける力をつけることだと考えています。また教室で教わるだけの三年間でなく、学校を飛び出して「未来共創」やボランティア活動で地域

や企業の方たちと正解が一つでない社会課題に汗を流してきました。解決しようと大人と一緒に考え、自分の言葉で表現した経験は、卒業後、大きな財産になると思います。課題解決能力やゼロからイチを作るといった力は、簡単にはできません。定期テストや共通テストのような正答がないからです。しかし、地域の社会課題の解決に真剣に取り組み、苦しんだ人ほど、大人になっても駆動し続けるエンジンを身につけられるのだと思います。皆さんが本校で培った「自ら問いを立て、他者と協働する力」こそが、持続可能な社会の創り手として、これからの時代を生き抜く真の資質です。本校で学んだことを基盤に、変化を「脅威」として恐れるのではなく、自らを更新し続ける「可能性」として楽しんでください。

- 先ほど、極めて無力で「未完成」な状態で生まれてくる皆さんが、保護者の方々がいなければ、生きることができなかつたという話をしました。そして「教育」や「他者との関わり」の重要性について触れました。皆さんは本校で担任をはじめ多くの教員から「教育」を受け、様々な活動を通じ、「他者との関わり」を学びました。しかし、まだ「未完成」です。私も含め人はみな生涯「未完成」だからこそ、環境に合わせて学び、自分を変え、進化し続けることができるのです。そして、そのような皆さんの人生を支えあうことができるのが、横浜瀬谷高校で出会った大切な仲間たちです。

社会がどれほど変化しても、人と人との間に流れるこの温かな「情」や人を思いやる気持ちこそが、私たちが守るべき持続可能な社会の根幹です。

もちろん「正解」はありません。自分で考え、学び続けて、新しい未来を共に創っていただくください。

卒業おめでとうございます。輝く未来を、幸多き素晴らしい人生を歩んでください。

令和8年3月3日 横浜瀬谷高等学校

校長 小林 幸宏